

テーマ

～最新の遺伝子検査に関する知識を深めよう～

主催 病理検査研究班

実施日時：令和元年 11 月 13 日（水） 19 時 00 分～21 時 00 分

会場：浦和コミュニティーセンター 第 13 集会室 点数：専門教科－20 点

講演 1：MSI 検査の実際と解釈

講師：飯島 健太郎（株式会社エスアールエル 遺伝子 DNA 解析課）

講演 2：動き始めたゲノム医療～NCC オンコパネルについて～

講師：植木 典子（シスメックス株式会社 LS 事業部 LS 市場開発部）

参加人数：会員 57 名（非会員・賛助会員を含む）

出席した研究班班員：岡村卓哉 細沼佑介 高橋俊介 金泉恵美子 小島朋子
関口久男 今村尚貴 森田繁 荻真里子

研修内容の概要・感想など

厚生労働省は 9 月 19 日付で、がんゲノム医療拠点病院として 34 医療機関を指定した。既ががん診療連携病院に指定されている施設と共ががんゲノム医療が推進されていくことになる。それに伴い上記以外の病院でも、病理検体が提出される可能性のある施設ではゲノム診療に呼応する確実な病理標本作製が望まれている。

今回の研修会は最新の遺伝子検査に関する知識を深めようと題して二人の講師の方に講演して頂いた。MSI は microsatellite instability の略でマイクロサテライト不安定性という状態のことで、NCC オンコパネルとは販売名で一般的名称をがんゲノムプロファイリング検査用の遺伝子検査解析のことである。

講演 1 は MSI 検査の実際と解釈で検査方法の概要と検体提出について飯島氏に講演して頂いた。MSI 検査はミスマッチ修復機能を評価する検査で、FFPE 検体から DNA を抽出し PCR で増幅したあと電気泳動にて波形表示されたものを判定する。核酸の品質を維持するには検体の固定条件や固定するまでの時間を 3 時間以内にするなどの注意が必要との事であった。

講演 2 は動き始めたゲノム医療 NCC オンコパネルと題して、国内がんゲノム医療の全体像などを含め植木氏に講演して頂いた。日本人向けに、国立がん研究センターが開発した 114 遺伝子診断パネルがこのシステムで解析可能との事であった。講演では実際の検査の成功例・失敗例を HE 染色像から教示された。より具体的であり標本作製の際の手助けになると思われた。

今回のこのような講演を聴講するなどして遺伝子検査の知識を深め、より良い検査が遂行される事を期待する。

（文責：荻 真里子）